中原　泉
一枚の写真
8

豪州アデレード大学との奇縁

南オーストラリアの州都アデレードは，佳い街である。アデレード大学は，豪州最古の総合大学である。同歯学部の解剖学資料室は，原住民アボリジニの資料の宝庫である。代々の教授たちが，20年にわたって約400人の口腔内の追跡調査をした。1997年２月，背丈もある木製ケースの広い引出しをあけたとき，思わず私は身震いしていた。

この解剖学講座のグラント. C. タウンゼント教授（現歯学部長）のもとに，新潟の影山幾男助教授（当時）が留学していた。私たち研究グループは，２回あわせて２週間余り，資料室へ通ってすべての顎模型を隈なく計測した。

42℃の酷暑にあえぎあえぎ，幾度もクリスマスツリーの飾られたホテルに逃避した。長年，アボリジニの住む灼熱の原野に赴いた先人研究者に敬服し，その努力と忍耐に深く感謝した。

じつは，私は資料収集にあわせて，同歯学部との姉妹校の提携を目論んでいた。しかし,日本人研究者のグラント詣では盛んで，本学はもっとも後発であった。当方の遠まわしの打診に，グラントは困ったように返事を避けた。諦めかけていたところ，私は，彼に構内のP.R.ベッグ記念室に案内された。

若い矯正科医は知らないが，ベッグはアボリジニの咬合様式からベッグ矯正治療法を創始し，一時代を画した大学者である。本学矯正学の榎 恵教授が，ベッグ直伝のテクニックをわが国に導入し，当時，先陣をきった矯正学講座は興奮に沸いた。ベッグはアデレードの名士の一人として，市内のマンホールの蓋に顕彰されていた。私たちは地図を片手に，そのマンホールを探しまわってカメラにおさめた。

ベッグは開業歯科医だったが，歯学部では彼の功績を高く評価した。記念室は，矯正診療室前のガラス張りの細長い室であった。壁一面に飾られた大小の表彰状や感謝状の額を眺めながら，私はフッと或る予感をおぼえた。

一枚の額に，見覚えのある癖字…Minoru Nakaharaというサインが目に入った。タイプで粗末な洋箋に打った名誉博士の学位記。中原 實 学長が，1969年にベッグに贈った名誉博士の第一号であった。思いがけない奇縁に万感込みあげ，私は「コレ，私の父ですよ」と指さした。グラントは青い目を見張って，30年前の友情の証に釘付けになった。

それから５ヵ月後，私は再豪し７月４日に姉妹校の調印をした。　**（写真：調印後，大学本館前）**